

S	文芸入門 読むこと・書くこと 科目コード： 53101
配当年次	1年次～
単位数	1
履修の前提条件	なし ※2014年度までに「文芸基礎2」（S1）単位修得済みの場合、履修は不可。
開講日程・ 開講地・定員	文芸入門(読むこと・書くこと)a 開催日程：2019年6月8日（土）～ 2019年6月9日（日） 開催地：京都、受講料： ¥8,000、定員：50 文芸入門(読むこと・書くこと)b 開催日程：2019年6月15日（土）～ 2019年6月16日（日） 開催地：東京■、受講料： ¥10,500、定員：50
担当者	a：門崎敬一*、小柏裕俊、b：門崎敬一*、池田雄一

科目概要と到達目標

これから文芸コースで学習していくための基礎知識を身につける授業です。
そのために、「読む」そして「書く」とはどのような行為なのか、というところまでさかのぼって考えてみます。そして「読む」として「書く」ことを適切に行うために知っておくべきルールについて学びます。
また、文芸コースでの学びの対象となる「文芸」あるいは「文学」とはそもそも何なのか。人間はなぜそのようなものを生み出し、それに託して人間は何を表現してきたのかを探ります。
この授業を通して、これから始まる文芸の世界の展望と学習への意気込みを獲得することが目標です。

評価基準と成績評価方法

1. 授業に積極的に取り組んでいるか。
2. 授業の趣旨を正しく把握・理解しているか。
3. 試験の答案が筋道の通った論述になっているか。
4. 試験の答案が日本語表記として適切であるか。

本科目は、授業への取り組み、および授業時試験の結果を総合的に判断して成績評価を行います。

予習・復習

予習として授業で取り扱われるテーマについて調べて来てください。
復習として授業で取り扱われた作品や配布された資料を読み直してください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	担当者作成のプリントを授業中に配付します。
参考文献・URL	『2019 コースガイド 文芸コース』掲載の「日本語表記の標準的なルール」

授業計画

【a日程（京都）】

●スケジュール

6月8日（土）瓜生山キャンパス 担当者：門崎敬一

3講時 〈読む〉ことと〈書く〉ことの意味を考える

4講時 読む技術（1）能動的に読む

5講時 書く技術 日本語表記の標準的なルール

6月9日（日）瓜生山キャンパス 担当者：小柏裕俊

1講時 読む技術（2）芸術のなかの文学

2講時 読む技術（3）世界のなかの文学

3講時 読む技術（4）「読む」ことを意識する

4講時 読む技術（5）「感想」から次のステップへ

5講時 まとめ／試験

【b日程（東京）】

●スケジュール

6月15日（土）外苑キャンパス（予定） 担当者：門崎敬一

3講時 〈読む〉ことと〈書く〉ことの意味を考える

4講時 読む技術（1）能動的に読む

5講時 書く技術 日本語表記の標準的なルール

6月16日（日）外苑キャンパス（予定） 担当者：池田雄一

1講時 文学について考える（1）芸術のなかの文学

2講時 読む技術（2）小説を構成するもの

3講時 文学について考える（2）説明することと解釈すること

4講時 文学について考える（3）ジャンルについて考える

5講時 まとめ／試験

受講にあたって

●持参物

筆記用具、『2019 コースガイド 文芸コース』

S	文章表現基礎	科目コード： 53118
配当年次	1年次～	
単位数	1	
履修の前提条件	なし	
開講日程・ 開講地・定員	文章表現基礎a 開催日程：2019年7月20日（土）～ 2019年7月21日（日） 開催地：京都、受講料： ¥8,000、定員：70 文章表現基礎b 開催日程：2019年7月13日（土）～ 2019年7月14日（日） 開催地：東京■、受講料： ¥10,500、定員：50	
担当者	a：野口良平、b：伊藤譲治	

科目概要と到達目標

文章を書くうえでの基礎的なルール、そしてレポートや論文の基本となる「論述」の作法を学びます。ここでは、読むこと、書くことを通じて考えを広げ、深めていく「考察」の姿勢を重視します。特に、作品や事象について語る際に必要な「批評的思考」のセンスの養成をめざします。

評価基準と成績評価方法

1. 授業の内容を理解しているか。
2. 授業に積極的に取り組んでいるか。
3. 授業中におこなう試験で、正しい表記や論理的な議論の展開ができているか。

本科目は、授業への取り組み、授業中に実施する試験などを総合的に判断して成績評価を行います。

予習・復習

予習として、参考文献にあげられている書籍（少なくとも1冊）、および事前配布資料がある場合は読んでおいてください。復習として、授業で取り扱われたテキストや、ご自身のお書きになった文章を読み直し、その後の文章執筆に役立ててください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	担当者作成のプリントを開講前に送付し、授業中にも配付します。参考文献の一部は、事前配布資料として配付します。
参考文献・URL	【a日程（京都）】 加藤典洋『言語表現法講義』（岩波書店、1996年） 鶴見俊輔『文章心得帖』（ちくま学芸文庫、2013年） 【b日程（東京）】 本多勝一『〈新版〉日本語の作文技術』（朝日文庫、2015年）

授業計画

【a日程（京都）】

7月20日（土） 瓜生山キャンパス

文章表現へのレッスン

3講時 経験としての書くこと——その広さと深さ

4講時 書くことの三条件（誠実さ、明晰さ、わかりやすさ）と、三段階（思いつき、うらづけ、うったえ）

5講時 課題文を読む——読みこむ、しらべる、構想を立てる

※事前に、課題文（参考資料とは別の短めの文章）を配布します。その課題文に関連して、二日間をかけて短いレポート（意見、考察）をまとめていくことを目標とします。初日の授業後、二日目にむけてレポートのメモもしくは草稿を準備してください。授業終了後、今後の学習に役立てるための簡単な試験を実施します。

7月21日（日） 瓜生山キャンパス

書くことの実践

1講時 事前講義——文章の理想について／型によって型から自由に

2講時 レポートの執筆

3講時 教員による講評（1）

4講時 教員による講評（2）

5講時 教員による講評（3）／試験

※講評の時間を通して、文章表現に関するさまざまな主題（問題の立て方、内容や表現の含む可能性、構成、文と文の接続、句読点、修飾関係、表記など）について、原初的、多角的、具体的、実践的に学んでいきます。授業終了後、二日間で学んだことを踏み固め、今後の学習に生かすことをねらいにした、試験を行います。

【b日程（東京）】

7月13日（土） 外苑キャンパス（予定）

文章表現

3講時 文章の基礎的なルール

話し言葉と書き言葉／原稿のルール／句読点の考え方

4講時 文章表現のテクニック

漢語と大和ことば／具体性と抽象性／推敲をする

5講時 文章の書き方の基本

何を書くか／どう書くか／どう構成するか

7月14日（日） 外苑キャンパス（予定）

論述の実践

1講時 実践的な作文技術

2講時 誤りやすい慣用句・表現／新聞の実例／間違いやすい同訓異義語・同音異義語

3講時 レポートの執筆

4講時 グループ発表と講評

5講時 グループ発表と講評／試験

受講にあたって

- 持参物

筆記用具、事前配布資料

- その他

＜受講上の注意＞

授業の進度により上記スケジュールは変更することがあります。

S	文芸I-1 日本文学 科目コード： 53119
配当年次	1年次～
単位数	1
履修の前提条件	なし ※2014年度までに「文芸講義1」（S2）単位修得済みの場合、履修は不可。
開講日程・ 開講地・定員	文芸I-1(日本文学)a 開催日程：2019年11月23日（土）～ 2019年11月24日（日） 開催地：京都、受講料： ¥8,000、定員：50 文芸I-1(日本文学)b 開催日程：2019年11月2日（土）～ 2019年11月3日（日） 開催地：東京■、受講料： ¥10,500、定員：50
担当者	a：野口良平、b：中野綾子

科目概要と到達目標

日本の近現代文学（幕末・明治・昭和・平成まで）の流れを俯瞰的にとらえる授業です。いくつかの注目すべき作品を鑑賞し、その内容を読み解きます。また、書かれた時代背景にも目配りし、時代を生きた作家たちの思考を探ります。

江戸文化を経て文明開化へ、大正デモクラシーから戦争へ、戦後の民主主義と高度経済成長、そして少子高齢化社会へ。およそ百五十年にわたる日本で、作家たちが表現した世界は、いかなるものだったのでしょうか。あるいはまた、それらの作品を当時の読者はどのように受け入れたのでしょうか。日本文学の変化や断絶を見渡し、これからの可能性をあらためて認識することが科目の目標です。

評価基準と成績評価方法

1. 授業に積極的に取り組んでいるか。
2. 授業の趣旨を正しく把握・理解しているか。
3. 学習したことと独自の視点が試験の答案に反映しているか。
4. 試験の答案が日本語表記として適切で、筋道の通った論述になっているか。

本科目は、授業への取り組み、および授業時試験を総合的に判断して成績評価を行います。

予習・復習

授業計画にあげられている書籍をできるかぎり読んで、講義内容について理解を深めるようにしてください。

復習として授業で取り扱われた作品や配布された資料を読み直し、授業内容を整理してください。そして次年度以降の自分の履修計画や研究テーマの参考とするようにしてください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	担当者作成のプリントを開講前に送付し、授業中にも配付します。
参考文献・URL	「受講にあたって」を参照のこと

【a日程（京都）】

●授業内容

この授業は、日本列島を舞台にくりひろげられてきた言語表現の総体を射程に置きながら、主に幕末以後現在に至る150年ほどの言語表現史を眺望し、それらの試みが、さまざまな難問を抱える21世紀に生きる私たちに与える示唆について考察、検証していきます。

幕末以後の日本列島における言語表現が、どのような状況を背景に、どのような試みを生み出してきたのかについて具体的に理解をすすめながら、私たち自身の言語表現を、より広く、深いものに育てていくための手がかりをつかむことを目標にします。

●スケジュール

11月23日（土） 瓜生山キャンパス

3講時 はじめに――太夫と才蔵の対話から

折口信夫「日本文学における一つの象徴」（『折口信夫全集』17、中公文庫）、吉本隆明『言語にとって美とはなにか』（I・II、角川ソフィア文庫）ほか。

4講時 1868年の分断線――ミッシングリンクを埋めるもの

吉田松陰、坂本龍馬、中岡慎太郎の文章。福沢諭吉『丁丑公論・瘠我慢の説』（講談社学術文庫）、中江兆民『三酔人経綸問答』（岩波文庫）。円朝、北村透谷、樋口一葉の文章ほか。

5講時 夏目漱石とその時代――「追い越せ」と「追い越さない」

『坊っちゃん』（岩波文庫）、『こころ』（岩波文庫）ほか。

11月24日（日） 瓜生山キャンパス

1講時 『大菩薩峠』の世界――無明と夢見の弁証法

中里介山『大菩薩峠』（全20巻、ちくま文庫）ほか。

2講時 不安と亀裂の受け皿

宮澤賢治「銀河鉄道の夜」（『宮澤賢治全集』7、ちくま文庫）ほか。

3講時 戦時期の経験とその遺産

中野重治「村の家」（『村の家・おじさんの話・歌のわかれ』、講談社文芸文庫、埴谷雄高『死霊』（全3巻、講談社文芸文庫）、永井荷風『断腸亭日乗』（上下、岩波文庫）、吉田満『戦艦大和ノ最期』（講談社文芸文庫）、柴崎友香『わたしのいなかった街で』（新潮文庫）ほか。

4講時 敗戦と「戦後」の発見

ロベール・ギラン『日本人と戦争』（朝日文庫）、太宰治『トカトントン』（『太宰治全集』8、ちくま文庫）、井伏鱒二『黒い雨』（新潮文庫）ほか。

5講時 終わりに――「生きる勇気」としての文学／試験

村上春樹『風の歌を聴け』（講談社文庫）ほか。

【b日程（東京）】

●授業内容

この授業では、日本近代文学の移り変わりを、読書・読者という観点から、実際の作品を読みつつ確認していきます。どのような文学作品も、読者に読まれることによって、はじめて社会的な意味を持つようになります。では、これまでに日本近代文学の作品は、どのように読まれてきたのでしょうか。もしかしたら、現代を生きるわたしたちとは異なる読まれ方をされていたかもしれません。限られた時間と作品数ですが、できる限り関連する作者や作品、雑誌を紹介することで、文学の進んできた道のりをイメージできるようにしていきます。

●スケジュール

11月2日（土） 外苑キャンパス（予定）

3講時 読者について考えてみること〈海外で読まれる日本文学〉

芥川龍之介『舞踏会』（新潮文庫、岩波文庫）

4講時 本はどのように読まれてきたのか〈明治から大正へ〉（1）

夏目漱石『三四郎』（新潮文庫、岩波文庫）

二葉亭四迷『あひびき』（岩波文庫、新潮文庫）

5講時 本はどのように読まれてきたのか〈大正から昭和へ〉（2）

菊池寛『出世』、林芙美子『図書館』（『図書館情調』皓星社）

11月3日（日） 外苑キャンパス（予定）

1講時 社会変容と読者

国木田独步『窮死』（岩波文庫）、芥川龍之介『蜜柑』（岩波文庫）

田山花袋『少女病』（新潮文庫）

2講時 少女雑誌と読者

吉屋信子『花物語（ヒヤシンス）』（河出文庫）

3講時 科学の発展と観客

横光利一『機械』（新潮文庫）、谷崎潤一郎『人面疽』（『潤一郎ラビリンス11』中公文庫）

4講時 読者としての作家

太宰治『女生徒』（新潮文庫）、坂口安吾『真珠』（角川文庫、講談社文芸文庫）

5講時 戦時下の読書

石川淳『マルスの歌』（講談社文芸文庫）、中島敦『文字禍』（岩波文庫）

受講にあたって

●持参物

【a日程（京都）】

筆記用具、事前配付資料

【b日程（東京）】

筆記用具、事前配付資料

●その他

【a日程（京都）】

＜授業で扱う作品について＞

授業内容の一部に追加や変更が生じる可能性があります、その場合は、事前配布資料を配布する際にお知らせします。

＜取り上げる予定の作品・参考文献＞

参考文献として、以下のものを挙げておきます。このうち少なくとも一つにでも目を通しておかれることをお勧めします。これ以外にも、授業中に適宜文献を紹介します。加藤周一『日本文学史序説』（上下、ちくま学芸文庫）／加藤典洋『増補 日本という身体』（河出文庫）／伊藤整『近代日本の文学史』（夏葉社）／関川夏央・谷川ジロー『「坊っちゃん」の時代』（漫画、全5巻、双葉文庫）／鶴見俊輔『戦時期日本の精神史』『戦後日本の大衆文化史』（岩波現代文庫）。また、担当教員の関心の所在をお知りになりたい場合は、野口良平『幕末的思考』（みすず書房）、『「大菩薩峠」の世界像』（平凡社）を読んでみてください。

【b日程（東京）】

＜テキスト・参考文献について＞

担当者作成のプリントを開講前に送付し、授業中にも配布します。そのほかの作品については、授業中に作品の抜粋を配布しますが、できれば自主的に作品をみつけて、読んできてください。指定の作品は、ほぼ文庫本で見つけることができますが、「日本文学全集」や青空文庫など、どのような形で読んでいても大丈夫です。ただし、授業内容の作品リストに追加が生じる可能性もありますので、ご了承ください。

S	文芸I-2 外国文学 科目コード： 53120
配当年次	1年次～
単位数	1
履修の前提条件	なし ※2014年度までに「文芸講義2」（S2）単位修得済みの場合、履修は不可。 ※本科目は本学大学院芸術環境専攻の科目を文芸コースの学生の方にも開放する形態で開講しています。そのため、授業は大学院の学生と一緒に受講することになります。また、「募集定員」欄に示す数は大学院の学生を含めた数です。受講希望者が定員を超えた場合は授業内容に関する修了研究（大学院生）、卒業研究を予定している学生の受講を優先します。
開講日程・ 開講地・定員	文芸I-2(外国文学)a 開催日程：2019年10月12日（土）～ 2019年10月13日（日） 開催地：京都、受講料： ¥8,000、定員：50 文芸I-2(外国文学)b 開催日程：2019年10月5日（土）～ 2019年10月6日（日） 開催地：東京■、受講料： ¥10,500、定員：50
担当者	a：大辻都*、河田学、b：田中尚史*

科目概要と到達目標

外国文学（あるいは世界文学）をいかに読みこなすか。あまりに大きな領域を前に、とまどう人も多いかもしれません。この科目は、外国文学という深い森を、いくつかの小径にそって、歩きめぐる試みです。それには、従来の文学全集的な価値観にはこだわらず、古典はもとより、一般に知られていない文学や最新の傾向も視野に入れていきます。また複数の作品を「系譜」にしたがって読みあわせていくことによって、俯瞰も試みます。

なぜ外国文学を読むのか。まず、我々がふだん親しんでいる文学の源がそこにあるからです。そして、文学の新しい試みや流れが、そこにあるからです。

しかし一番の理由は、限らない楽しみが見出せるからです。さまざまな人間、風景、感覚、色彩にめぐりあい、外国文学の豊穡な魅力を発見することがこの科目の目標です。

評価基準と成績評価方法

1. 授業に積極的に取り組んでいるか。
2. 授業の趣旨を正しく把握・理解しているか。
3. 学習したことと独自の視点が試験の答案に反映しているか。
4. 試験の答案が日本語表記として適切で、筋道の通った論述になっているか。

本科目は、授業への取り組み、および授業時試験を総合的に判断して成績評価を行います。

予習・復習

予習として授業計画にあげられている作品のいくつかを読んでください。
復習として授業で取り扱われた作品や配布された資料を読み直してください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	担当者作成のプリントを授業中に配付します
参考文献・URL	なし

授業計画

【a日程（京都）】

- 10月12日（土） 瓜生山キャンパス 担当者：河田学
- 3講時 近代小説（ノヴェル）の誕生：ダニエル・デフォー『ロビンソン・クルーソー』
 - 4講時 小説の円熟期：ジェイン・オースティン『エマ』
 - 5講時 小説から芸術へ：ヘンリー・ジェイムズ『ねじの回転』
- 10月13日（日） 瓜生山キャンパス 担当者：大辻都
- 1講時 近代小説の誕生：セルバンテス『ドン・キホーテ』
 - 2講時 時間と記憶：プルースト『失われた時を求めて』
 - 3講時 場所と物語：フォークナー『響きと怒り』
 - 4講時 他者の想像力：ポストコロニアル文学以後
 - 5講時 まとめ／試験

【b日程（東京）】

- 10月5日（土） 外苑キャンパス（予定）
- 物語を駆動するものとはなにか。テーマ、設定、文体、会話、伏線、さまざまな要素に着目しながら、外国文学の手法を読み解きます。
- 3講時 ジャック・ケルアック『路上』
 - 4講時 マヌエル・プイグ『蜘蛛女のキス』
 - 5講時 ウラジミール・ナボコフ『ロリータ』
- 10月6日（日） 外苑キャンパス（予定）
- 1講時 フィリップ・K・ディック『高い城の男』
 - 2講時 レイモンド・チャンドラー『長いお別れ』
 - 3講時 アリス・マンロー『イラクサ』
 - 4講時 ジュンパ・ラヒリ『停電の夜に』
 - 5講時 ディスカッション／試験

受講にあたって

- 持参物
- 筆記用具

●受講上の注意

【a日程（京都）】

当日作品の抜粋をプリントで配付します。また、授業スケジュールの作品リストが部分的に変更される可能性があります。その場合、詳細は受講許可後に別途通知いたしますので、ご了承ください。

【b日程（東京）】

・当日作品の抜粋をプリントで配付します。また、授業スケジュールの作品リストが部分的に変更される可能性があります。その場合、詳細は受講許可後に別途通知いたしますので、ご了承ください。

・履修者（学生）は図書館で借りるか、購入するかして、作品をあらかじめ読んでくことを推奨します。以下の翻訳を使う予定です。

ジャック・ケルアック『路上』青山南訳（河出文庫）
マヌエル・プイグ『蜘蛛女のキス』野谷文昭訳（集英社文庫）
ウラジミール・ナボコフ『ロリータ』若島正訳（新潮文庫）
フィリップ・K・ディック『高い城の男』浅倉久志訳（ハヤカワ文庫）
レイモンド・チャンドラー『長いお別れ』清水俊二訳（ハヤカワ文庫）
アリス・マンロー『イラクサ』小竹由美子訳（新潮クレストブックス）
ジュンパ・ラヒリ『停電の夜に』小川高義訳（新潮文庫）

●その他

＜留意事項＞

■授業スケジュールについて

本科目は、教員のその年々の研究成果を反映した講義となっています。その性格上、このシラバスに記載した授業内容と若干変更があることをご了承ください。

■大学院との合同開講について

本授業は大学院の学生と一緒に受講することになりますので、初学者向け科目ではありません。

S	文芸I-4 小説の構造 科目コード： 53121
配当年次	1年次～
単位数	1
履修の前提条件	なし ※2014年度までに「文芸講義4」（S2）単位修得済みの場合、履修は不可。 ※a, bの2日程開講。受講される場合は、いずれかを選択、履修してください。
開講日程・ 開講地・定員	文芸I-4(小説の構造)a 開催日程：2019年8月17日（土）～ 2019年8月18日（日） 開催地：京都、受講料： ¥8,000、定員：50 文芸I-4(小説の構造)b 開催日程：2019年8月10日（土）～ 2019年8月11日（日） 開催地：東京■、受講料： ¥10,500、定員：50
担当者	河田学

科目概要と到達目標

「小説」とふだん私たちが呼んでいる文章は、じつは多くの「技法」によって支えられています。名作と呼ばれる作品の多くは、意識的なものであれ、無意識的なものであれ、作者の「技」によって初めて名作となるのです。本講義では、このような小説の技巧のなかでもとくに重要なもの、応用範囲の広いもの8つに焦点をあて、実際の作品の講読をとおして、その真髓に迫ります。またなかでも重要と思われる4つのテーマについては、「ワークショップ」と称して、授業時間内に実際に手を動かして短い文章（既存の作品の翻案など）を書き、技法や形式の違いが生み出す効果を実際に確かめてもらう予定にしています。なお、受講にあたっては、創作経験の有無、最終的に創作系での卒業論文執筆を目指しているかといったことは一切問いません。

評価基準と成績評価方法

1. 内容の理解度
2. スクリーニングで学習したことが試験の答案に反映されているか

本科目は、授業への取り組み、および授業時試験を総合的に判断して成績評価を行います。

予習・復習

予習として授業で取り扱われるテーマについて調べてきてください。
復習として授業で取り扱われた作品を読み直してください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	担当者作成のプリントを授業中に配付します。
参考文献・URL	デイヴィッド・ロッジ『小説の技巧』柴田元幸・斎藤兆史訳（白水社、1997年）

授業計画

a : 8月17日（土） 瓜生山キャンパス b : 8月10日（土） 外苑キャンパス（予定）

3講時 語りのヴァリエーション①——語り手

4講時 語りのヴァリエーション②——視点

5講時 語りのヴァリエーション③——さまざまな語りの仕掛け

a : 8月18日（日） 瓜生山キャンパス b : 8月11日（日） 外苑キャンパス（予定）

1講時 物語と時間

2講時 物語の方法論①——冒頭、謎、サスペンス

3講時 物語の方法論②——象徴と異化作用

4講時 物語の方法論③——エンディング

5講時 まとめ／試験

受講にあたって

●持参物
筆記用具

S	文芸II-3 トラヴェル・ライティング 科目コード： 53122
配当年次	1年次～
単位数	1
履修の前提条件	※2014年度までに「文芸研究11」（S2）単位修得済みの場合、履修は不可。
開講日程・ 開講地・定員	文芸II-3(トラヴェル・ライティング)a 開催日程：2019年11月2日（土）～ 2019年11月3日（日） 開催地：京都、受講料： ¥8,000、定員：40 文芸II-3(トラヴェル・ライティング)b 開催日程：2020年2月1日（土）～ 2020年2月2日（日） 開催地：東京・神奈川■、受講料： ¥10,500、定員：40
担当者	a：近藤雄生、b：山口由美

科目概要と到達目標

文芸の一ジャンルであるトラヴェル・ライティングとは何かを考え、実践する授業です。トラヴェル・ライティングに求められるものは何なのか。どのように情報が処理された時、個人的な行為としての旅が文芸に昇華するのかを学びます。トラヴェル・ライティングはノンフィクションとの接点であり、エッセイや評論との接点でもあります。授業の一環として、「小さな旅」に出かけ、旅をしながら、どこに視点を置き、何を見て、どう取材するのかを学び、さらに、実際に書く作業を通じて、トラヴェル・ライティングを実践します。旅の中から独自のテーマや題材を見つけること、それを文芸としてのトラヴェル・ライティングにまとめる技術を習得します。

評価基準と成績評価方法

1. 授業に積極的に取り組んでいるか。
2. 授業の趣旨を正しく把握・理解しているか。
3. 提出課題が日本語表記として適切で、独自の視点をもった作品になっているか。

本科目は、授業への取り組み、および提出課題を総合的に判断して成績評価を行います。

予習・復習

予習として、参加する行き先について事前に調べ、理解を高めた上で、トラヴェル・ライティングの実践である学外授業に参加して下さい。

復習として、トラヴェル・ライティングというジャンルの可能性について考えをまとめてください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	a：担当者作成のプリントを授業中に配付します
参考文献・URL	a：授業中に随時紹介します b：各自「小さな旅」の目的地、横浜に関する本を取材テーマに応じて探して、取材テーマを見つける参考にして下さい

授業計画

【a日程（京都）】

● 授業内容

初日は、京都市内の蹴上辺りに集合して、3時間ほどかけてその北側にある京都造形芸術大学瓜生山キャンパスまで自由に移動する、ということをこの講義での「小さな旅」としてやっていただく予定です。途中には、南禅寺、哲学の道、銀閣寺、大文字山など、京都の見どころが多数あるものの、徒歩でも移動可能な距離です。事前準備として、旅するところがどんな場所か、何があるか、どこに行きたいかなどを下調べしておいてください。この辺りを実際に散策し、その中で感じ考えたことをそれぞれが紀行作品として書いていただくことを課題とします。二日目は、紀行文の書き方について講義し、その内容をもとに、それぞれどうやって書いていくかをディスカッションし、執筆、簡単な合評までを予定しています。

● スケジュール

11月2日(土) 学外・瓜生山キャンパス

「小さな旅」＜行き先：京都市内（蹴上～瓜生山キャンパス界限）＞

3講時 集合（蹴上駅） 簡単な説明の後、解散し自由行動

4講時 蹴上～瓜生山キャンパス界限

5講時 瓜生山キャンパスに17時頃集合（予定）、授業

11月3日(日) 瓜生山キャンパス

1講時 旅の書き方（講義）

2講時 講義に基づき、各自テーマなどを決め、ディスカッション

3講時 課題の執筆

4講時 課題の合評

5講時 合評続き／後半40分で課題を完成させる

【b日程（東京・神奈川）】

● スケジュール

2020年2月1日(土) 学外：横浜（予定） 現地集合13時40分

3講時 小さな旅（横浜開港資料館集合、見学の後、自由行動：予定／参加人数などによって変更あり）

4講時 小さな旅（横浜にて自由行動）

5講時 小さな旅（横浜にて自由行動の後、ホテルニューグランド、ザ・カフェ集合：予定／参加人数などによって変更あり）

2020年2月2日(日) 外苑キャンパス（予定）

1講時 トラヴェル・ライティングに必要な技法（情報の取捨選択など）

2講時 トラヴェル・ライティングにおける「私」とは

3講時 途中課題の執筆

4講時 途中課題の合評

5講時 合評および質疑応答／後半40分で課題を完成させる

受講にあたって

● 持参物

【a日程（京都）】

・初日の「旅」では、歩く時間が少なくないので、動きやすく、歩きやすい服装でいらしてください。季節柄、寒いこともありますので防寒着もお忘れなきようお願いいたします。講義に関しては、特に必要な

持ち物はありませんが、2日目には執筆時間も設ける予定です。必要な方はパソコンなどをお持ちください（ただし、教室内でのプリンター出力はできません。提出課題は手書きとします）。その場合、教室内のコンセントには限りがありますのであらかじめご了承ください。

・事前準備の下調べの際に使用した本や資料などがありましたら、執筆の参考に持参してください（2日目）。

【b日程（東京・神奈川）】

・筆記用具、（必要に応じて）カメラ、ICレコーダーなど

日帰り旅行では、情報収集をどのように行うかは受講生の自主性に任せます。カメラなどを必要と思う場合は、持参のこと。2日目には執筆時間も設ける予定です。必要な方はパソコンなどをお持ちください（ただし、教室内でのプリンター出力はできません。提出課題は手書きとします）。その場合、教室内のコンセントには限りがありますのであらかじめご了承ください。

・事前準備の下調べの際に使用した本や資料などがありましたら、執筆の参考に持参してください（2日目）。

●諸経費

【a日程（京都）】

詳しくは受講許可後に別途通知いたします。

【b日程（東京・神奈川）】

詳しくは受講許可後に別途通知いたします。日帰り旅行（横浜を予定）に関しては、現地集合の交通費のほか入場料、飲食代などが必要です(1000～3000円前後)。費用は当日支払い、もしくは後日指定口座より引き落としとなります。なお手配の都合上、「スクーリング申込取消願」の提出が開講1週間前を過ぎた場合も、スクーリング受講料だけでなく、学外研修費も全額お支払いいただくことになりますので、ご注意ください。

●その他

・詳細は受講許可後に別途通知いたします。必ずご確認ください。

・スクーリングでは合評のかたちで自らの文章が公表される可能性があることをご了解ください。

・授業で記録したデータにつきましては、著作権・肖像権・個人情報などの保護のため、第三者への公開や二次利用をしないでください。またデータは個人が責任をもって保管してください。

・この授業の中では、科目の特性上録音を許可していますが、本来は授業風景を断りなく録音・録画公開することは禁じられています。詳細は『学習ガイド2019』「3 履修・学習」のスクーリング受講時の注意事項をご覧ください。

・天候等の影響で当日にスケジュールが変更になる可能性があります。

S	文芸II-4 小説の技法 科目コード： 53123
配当年次	1年次～
単位数	1
履修の前提条件	なし
開講日程・ 開講地・定員	文芸II-4(小説の技法)a 開催日程：2019年8月10日（土）～ 2019年8月11日（日） 開催地：京都、受講料： ¥8,000、定員：40 文芸II-4(小説の技法)b 開催日程：2019年11月30日（土）～ 2019年12月1日（日） 開催地：東京■、受講料： ¥10,500、定員：40
担当者	a：松村栄子、b：須藤靖貴

科目概要と到達目標

人間は物語を常に欲しています。それは小説や映画、演劇のなかだけのものではありません。生きているだけで、わたしたちは物語を生産し続けています。この授業は物語に注目し、小説や戯曲を通してわたしたちが求めている（あるいはとらわれている）、「なにか」を探っていきます。小説家、シナリオライター志望者のみならず、この仕組みを理解することで、日常生活への新たな視点を得ることができるはずです。授業中、聞くだけでなく、手を動かして実際に物語を作っていただきます。新しい物語が授業中に生まれることを到達目標とします。

評価基準と成績評価方法

1. 授業に積極的に取り組んでいるか。
2. 授業の趣旨を正しく把握・理解しているか。
3. 提出課題が独創的なものになっているか。

本科目は、授業への取り組み、提出課題を総合的に判断して成績評価を行います。

予習・復習

予習として、自分が好きな小説やシナリオ（ジャンルを問わない）を思い起こし、読んでおきましょう（詳細は授業計画の事前課題を参照すること）。

復習として、課題提出した作品を最後まで仕上げてみましょう。また、自分が好きな作品を授業で実践した方法を用いて解剖・分析してみましょう。

テキストと参考文献・URL

テキスト	a：担当者作成のプリントを授業中に配付します b：なし
参考文献・URL	a：『実践小説教室』（根本昌夫 PHP新書） 『僕がかぐや姫/至高聖所』（松村栄子 ポプラ文庫）2019年3月刊行予定 b：『ナイン』（井上ひさし 講談社文庫）、『デッドヒート上巻、中巻、下巻』（角川春樹事務所 ハルキ文庫）2019年4、5、6月連続刊行予定

授業計画

【a日程（京都）】

●事前課題

自分が好きな小説を100編リストアップし、そのリストを提出できる形で用意してきてください。100編が無理であれば可能な限り（作品名・作者）。

●スケジュール

8月10日（土） 瓜生山キャンパス

3講時 イン트로ダクション——アンケート「好きな小説100」小説の何が面白いのか

4講時 書く前に決めること——長さ、文体、視点、キャラクター、一番表現したいこと
あるいは世界

5講時 キャラクターの設定とあらすじ

8月11日（日） 瓜生山キャンパス

1講時 説明ではなく描写するということ

2講時 会話について

3講時 語りと物語の時間について

4講時 批評力、校正力

5講時 質疑応答とまとめ／課題に沿って一場面創作（提出課題）

【b日程（東京）】

●事前課題

小説の構想を1つ考えて、600字程度であらすじを作ってくる。状況設定、登場人物などを具体的に。書きたい小説のざっくりとした構造を、他者（編集者）に平易につたえるトレーニング。

●スケジュール

11月30日（土） 外苑キャンパス（予定）

3講時 イン트로ダクション——現役作家による小説執筆の現場報告

4講時 小説の構想を立てる——制約・オリジナリティ・モチベーション

5講時 プロットの作り方——「ハコ書き」の応用（ワークショップ／小説の構想を立て、ハコ書きを書いてみる）

12月1日（日） 外苑キャンパス（予定）

1講時 1日目のまとめ／ワークショップの合評と講評／編集者からの注文について

2講時 執筆中のモチベーションをいかに維持するか／「書き出し」について（ワークショップ／「書き出し」を書いてみる）

3講時 脱稿こそがスタート地点——第一稿ができたときにやるべきこと／主観から客観への
ギアチェンジ

4講時 第一稿から第二稿へ（さらに二稿から三稿へ）——明確な「直しポイント」／編集者からの
「ダメ出し」について

5講時 質疑応答とまとめ／各自「書き出し」の完成（後半40分間で2日目2講時に書いた「書き出し」を、この授業を通して得たさまざまな知識、技法を用いて、推敲を重ねて書き直して、提出用の800字程度の「書き出し」を執筆する）

受講にあたって

●持参物

【a日程（京都）】

- ・筆記用具

【b日程（東京）】

- ・筆記用具

●その他

a日程、b日程ともに授業時間中にワークショップがあります。提出課題のテーマは当日お知らせします。

S	文芸III-1 エッセイ	科目コード： 53124
配当年次	1年次～	
単位数	1	
履修の前提条件	なし	
開講日程・ 開講地・定員	文芸III-1(エッセイ)a 開催日程：2019年6月29日（土）～ 2019年6月30日（日） 開催地：京都、受講料： ￥8,000、定員：50 文芸III-1(エッセイ)b 開催日程：2019年8月31日（土）～ 2019年9月1日（日） 開催地：東京■、受講料： ￥10,500、定員：50	
担当者	a：寒竹泉美、b：大高翔	

科目概要と到達目標

雑誌や新聞やウェブを眺めると、あちこちにエッセイが掲載されています。エッセイは、小説とは違って基本的には書き手の体験をつづったノンフィクションですが、客観的な事実を並べて立証する論文とは違って、主観的な書き手の心の動きを書くことで物事の魅力を伝える文章です。自らの心を見つめ、それを言葉に直すことは簡単なようでとても難しい作業です。しかし、これは自分らしく生きていくうえで大切な作業です。この授業では、エッセイの読み解きや書き方を学び、小説や論文とは違うエッセイならではの魅力を学びます。

評価基準と成績評価方法

1. 授業に積極的に取り組んでいるか。
2. 授業の趣旨を正しく把握・理解しているか。
3. 提出課題が独自の視点をもったものになっているか。

本科目は、授業への取り組み、および授業中に提出する課題や試験を総合的に判断して成績評価を行います。

予習・復習

予習として、身の回りにあるエッセイを探してみましょう。新聞・雑誌・ウェブなどを眺めてみてください。また、作家のエッセイ集をいくつか読み比べて、個性の違いを味わってみましょう。復習として、ぜひ、授業で取り組んだ課題以外にも自分でテーマを見つけて、自分のエッセイを書き上げ、誰かに読んでもらってみてください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	担当者作成のプリントを授業中に配付します
参考文献・URL	「その他」を参照のこと

授業計画

【a日程（京都）】

6月29日（土） 瓜生山キャンパス

- 3講時 エッセイとは何かを理解する
- 4講時 描写とは何かを理解する
- 5講時 描写の練習のミニワーク

6月30日（日） 瓜生山キャンパス

- 1講時 1日目のまとめ・ミニワークの講評
- 2講時 エッセイを書いてみる
- 3講時 推敲について学ぶ・推敲する
- 4講時 ほかの人の作品を読んで感想を伝える
- 5講時 まとめ／授業で学んだことに関する試験

【b日程（東京）】

8月31日（土） 外苑キャンパス（予定）

- 3講時 例文エッセイを読み解く1
- 4講時 例文エッセイを読み解く2、課題エッセイ1を書く
- 5講時 課題エッセイ1を書く

9月1日（日） 外苑キャンパス（予定）

- 1講時 課題エッセイ1より数作品に対して講師より講評、推敲について説明
- 2講時 課題エッセイ1を推敲、課題エッセイ2を書く
- 3講時 課題エッセイ2を書く、課題エッセイ2の合評
- 4講時 課題エッセイ2の合評、課題エッセイ2の推敲
- 5講時 まとめ／後半40分で課題エッセイ1と2を仕上げて提出

受講にあたって

●持参物

【a日程（京都）】

- ・自分が好きだと感じたエッセイ（本・切り抜き・コピー）
- ・筆記用具

【b日程（東京）】

- ・筆記用具(授業中でエッセイを執筆するため、鉛筆、シャープペンシル、消しゴムなど自分で使いやすいものを準備すること)
- ・電子辞書の使用も可

●その他

【a日程（京都）】

＜授業の前に（予習）＞

作家のエッセイ集や新聞のコラム、雑誌の中やブログなどエッセイは身近なところにあふれています。お気に入りのエッセイを探してみて、なぜそのエッセイが好きだと感じたのかを考えてみましょう。

S	文芸III-3 現代小説の前線 科目コード： 53125
配当年次	1年次～
単位数	1
履修の前提条件	なし
開講日程・ 開講地・定員	文芸III-3(現代小説の前線)a 開催日程：2019年7月27日（土）～ 2019年7月28日（日） 開催地：京都、受講料： ￥8,000、定員：50 文芸III-3(現代小説の前線)b 開催日程：2019年8月17日（土）～ 2019年8月18日（日） 開催地：東京■、受講料： ￥10,500、定員：50
担当者	a：佐々木勉、大浦康介、b：池田雄一

科目概要と到達目標

現代文学について語るのは、たやすいことではありません。私たちが同時代の文学として認識している作品は、多くの場合すでに古典であって、それから何年かたった今、文学は別の方向に向かっているかもしれないからです。今現在、どのような小説が書かれているのか、そこで作家たちはどんな意識を抱いているのか、何が問題になっているのか。現代小説の最前線にいるクリエイターや評論家に生の声で語ってもらうというのが、この授業の趣旨です。

評価基準と成績評価方法

1. 授業に積極的に取り組んでいるか。
2. 学習したことが試験の答案に反映されているか。

本科目は、授業への取り組み、および授業時試験を総合的に判断して成績評価を行います。

予習・復習

予習として授業計画にあげられている書籍をできるかぎり読み、そこに描かれている「現代人が抱える不安」について考えておいてください。
復習として授業で取り扱われた作品や配布された資料を読み直してください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	受講許可後に別途送付、および担当者作成のプリントを授業中に配付します。
参考文献・URL	a：佐伯一麦『渡良瀬』（新潮文庫） 吉本ばなな『さきちゃんたちの夜』（新潮文庫） 石井遊佳『百年泥』（新潮社） アリス・マンロー『小説のように』（新潮社） カズオ・イシグロ『日の名残り』（ハヤカワ文庫） ミシェル・ウエルベック『闘争領域の拡大』（河出文庫）

参考文献・URL	ミシェル・ウエルベック『素粒子』（ちくま文庫） ミシェル・ウエルベック『プラットフォーム』（河出文庫） ミシェル・ウエルベック『ある島の可能性』（河出文庫） ミシェル・ウエルベック『地図と領土』（ちくま文庫） ミシェル・ウエルベック『服従』（河出文庫）
----------	--

授業計画

【a日程（京都）】

● スケジュール

7月27日(土) 瓜生山キャンパス

＜日本現代小説の最前線＞ 担当者：佐々木勉

3講時 文体とは何か——佐伯一麦『渡良瀬』

4講時 癒しの正体——吉本ばなな「鬼っ子」（『さきちゃんたちの夜』所収）

5講時 ポストモダンとは何か——石井遊佳『百年泥』

7月28日(日) 瓜生山キャンパス

＜海外現代小説の最前線＞ 担当者：佐々木勉（1～2講時）、大浦康介（3～5講時）

1講時 物語の亀裂——アリス・マンロー「深い穴」（『小説のように』所収）

2講時 信頼できない語り手——カズオ・イシグロ『日の名残り』

3講時 フランス小説の現在——ミシェル・ウエルベック（1）

4講時 フランス小説の現在——ミシェル・ウエルベック（2）

5講時 まとめ／試験

【b日程（東京）】

● 授業内容

この授業では、現在進行形で活躍中の作家、ときには芥川賞の候補になるような「若手」の作家もふくめて研究していきます。漱石や鷗外あるいは太宰といった、いわゆる「古典」に属する作家とちがい、人によって好き嫌いが分かれる作品もありますが、グループワークを通じて、複数の視点を獲得していきましょう。

現役の作家は、私たちと同じ時代の空気を吸っています。なかには「何だこれは！」と思われる作風のものもありますが、臆せずチャレンジしていくのが、この授業の趣旨です。

● スケジュール

8月17日(土) 外苑キャンパス（予定）

3講時 作家研究① 村上春樹『緑の獣』

4講時 作家研究② 星野智幸『眼魚』

5講時 作家研究③ 綿矢りさ『声のない誰か』

8月18日(日) 外苑キャンパス（予定）

1講時 作家研究④ 絲山秋子『別所さん』

2講時 作家研究⑤ 滝口悠生『かまち』

3講時 作家研究⑥ 津村記久子『台所の停戦』

4講時 その他の作家

5講時 まとめ／試験

受講にあたって

●持参物

【a日程（京都）】

筆記用具、事前配付資料

【b日程（東京）】

筆記用具、事前配布資料

●その他

【b日程（東京）】

〈留意事項〉

- ・授業では、作品についてのディスカッションに参加していただきます。
- ・事前に送付された作品（短編です）を必ず読んでおいてください。

S	文芸III-4 作家研究 科目コード： 53126
配当年次	1年次～
単位数	1
履修の前提条件	なし ※2014年度までに「文芸研究17」（S1）単位修得済みの場合、履修は不可。
開講日程・ 開講地・定員	文芸III-4(作家研究)a 開催日程：2019年12月21日（土）～ 2019年12月22日（日） 開催地：京都、受講料： ¥8,000、定員：50 文芸III-4(作家研究)b 開催日程：2019年9月21日（土）～ 2019年9月22日（日） 開催地：東京■、受講料： ¥10,500、定員：50
担当者	a：君野隆久、日高佳紀、b：水野達朗

科目概要と到達目標

すぐれた文芸作品は時代を超え、人種や文化を越境して人びとに読み継がれていきます。そこに描かれた世界像は読む者の脳裏に明快なイメージを結び、生きる活力や人生の謎を解く鍵を与えることがあります。ときにはその作品に触発されて、まったく新しい作品を書く作家を生み出すこともあります。この科目では、そのようなすぐれた文芸作品を創造した小説家・詩人の実像を探究します。創作の源泉はどこにあるのかを探り、作品に込められた作家の思想や世界観を明らかにします。また、作品を完成させるまでのプロセスをたどることや、影響を与えた後進の作家たちにも目を配ります。作家の全体像を把握することで、その作品が私たちの眼前に新たな相貌のもとに立ち現われることが到達目標です。

評価基準と成績評価方法

1. それぞれの作家とその作品に積極的に向き合い、日本の文学の中に自分なりに位置づけることができたか。
2. 作品について自分自身の読解、見解を持ち、それを明確な言葉で表現できたか。

以上の評価観点を全体として満たしていることが合格の基準であり、主に授業への取り組みと授業時試験の結果を総合的に判断して成績評価を行います。

予習・復習

予習として、授業計画にあげられている作家の主要な作品をできる限り読んで、講義内容について理解を深めるようにしてください。

復習として、授業で扱われた作品や配布資料を読み直し、授業内容を整理してください。そして次年度以降の自分の履修計画や研究テーマの参考とするようにしてください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	【a日程（京都）】 プリントで配布します。 【b日程（東京）】
------	---

テキスト	プリントを配付しますが、下記の作品に関しては、どの出版社のものでもよいので可能でしたらご持参ください。
参考文献・URL	【a日程（京都）】 前橋文学館HP http://www.maebashibungakukan.jp/sakutaro 【b日程（東京）】 なし

授業計画

【a日程（京都）】

● 授業内容

（1日目）日本の近代詩の中でしばしば最重要の詩人と称される萩原朔太郎とその作品について学びます。朔太郎があらわれるまでの近代詩の流れを簡単に踏まえつつ、朔太郎の詩のいくつかを鑑賞し、その特徴を考えます。さらに、後代に与えた影響まで押さえておきたいと思います。

（2日目）谷崎潤一郎の作品の中から近代都市成立期の時代を背景に探偵小説の構造を扱った作品と、物語の行為自体の問題を扱った作品を取り上げ、それらに影響を受けた後続作家の作品と合わせて読むことで、創作に込められた作家の意図と表現の特質を学びます。

● スケジュール

12月21日（土）瓜生山キャンパス 担当者：君野隆久

- 3講時 日本の象徴詩の流れ～朔太郎の登場まで
- 4講時 朔太郎詩の特徴 その1
- 5講時 朔太郎詩の特徴 その2～後代に残したもの

12月22日（日）瓜生山キャンパス 担当者：日高佳紀

- 1講時 近代都市と探偵—谷崎潤一郎「秘密」を読む
- 2講時 谷崎「秘密」と江戸川乱歩「屋根裏の散歩者」
- 3講時 起源としての物語—谷崎潤一郎「吉野葛」を読む
- 4講時 谷崎「吉野葛」と中上健次「愛獣」
- 5講時 まとめ／試験

【b日程（東京）】

● 授業内容

宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」には、古今東西のさまざまな世界観が取り入れられており、また数次に及ぶ推敲によりその世界も大きく変容していきます。文学とは、人種や文化の境界を超える想像力の働きに支えられるものですが、賢治の作品はまさにそのような変幻自在な想像力の産物といえます。本講義では「銀河鉄道の夜」と、その推敲と並行して書かれた詩篇たち（「春と修羅」第二集、第三集）とを丁寧に読みながら、賢治の想像力の広さと深さを追体験することをめざします。

● スケジュール

9月21日（土）外苑キャンパス（予定）

- 3講時 賢治の「空」——『春と修羅』まで
- 4講時 『銀河鉄道の夜』の世界
- 5講時 『銀河鉄道の夜』の変容——三次稿と最終形

9月22日（日）外苑キャンパス（予定）

- 1講時 「晩年」の賢治
- 2講時 〈春と修羅・第二集、第三集〉とは何か
- 3講時 宮沢賢治の詩的宇宙（1）——「銀河鉄道」はどこを走るか
- 4講時 宮沢賢治の詩的宇宙（2）——「銀河鉄道」の軌道の移設

受講にあたって

●持参物

- 【a日程（京都）】
- ・筆記用具
- ・配布プリント（テキスト欄参照）

【b日程（東京）】

- ・筆記用具
- ・テキスト欄参照

●その他

《学習上の留意点》

【a日程（京都）】

（1日目）予習として、余裕があれば、各種文庫本の『萩原朔太郎詩集』を手に入れて目を通しておくことをお勧めします。

（2日目）扱う作品を精読してくること。余裕があれば、谷崎潤一郎の他作品、とくに新潮文庫『刺青・秘密』に収録されている初期作品や、昭和初期に発表された『春琴抄』、『盲目物語』などを読んでくると理解が深まると思います。

【b日程（東京）】

予習として、宮沢賢治「銀河鉄道の夜」の「最終形」と「初期形」（3次稿）を読んで、世界像がどのように変化しているか考えましょう（ちくま文庫の「宮沢賢治全集」のものが好適、かつ簡便だと思います）。できれば「春と修羅」第二集、第三集の詩篇たちも覗いてみてください。わからないところや興味を惹かれたところに印をつけておくといよいでしょう。授業後は、授業で聞いた他の人の意見や講師の解説なども思い出しながら、作品をじっくりと読み直して、自分の考えを整理してください。

TR	文芸論II-3 文芸批評	科目コード： 53636
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし ※2014年度までに「文芸研究5」（T2）単位修得済みの場合、履修は不可。	
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題提出形態	郵送・窓口 ※再提出の場合の提出方法は、初回提出方法に準ずる。	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 郵送・窓口での提出は締切日必着。	
単位修得試験	有	
担当者	野口良平	

科目概要と到達目標

批評とは、私たち人間が、何かを感じ、かつ考える主体として、この世界（他人や社会を含む）の中に「私」という存在を自覚的に置き直そうとする行為であるといえるでしょう。それは、既存の知識や理論を無条件に対象にあてはめることなく、また対象の欠点のあげつらいでもなく、対象と自分とのあいだに格別の関係を築くことで、一人の人間が全人的にこの現在の世界と相渉り、生きていく支えとして内部につねにはたらきつづけるような、ある一つの「力」のことをさしています。

この授業では、（1）さまざまな動機や問題関心に導かれながら、実りある批評や豊かな批評精神が生成してくる現場を、批評文（狭義の文芸批評には限られない）のアンソロジーの精読を通して実際に追体験し、理解したうえで、（2）今度は、私たち自身が批評行為の担い手、批評の書き手として自分を捉え直していくという、二つのことをめざしていきます。

評価基準と成績評価方法

1. テキスト全体を精読したうえで、自分にふさわしい一篇を選び、その一篇との間により関係を築きえているかどうか。
2. 自分にしか書けないことを、誰もが受けとることのできるような言い方で書けているかどうか。喚起力と説得力。
3. 自分にとっての既知の世界から未知の世界にむけて一步を踏み出し、新しい主体を築きえているかどうか。

本科目の成績評価は課題と単位修得試験の総合評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	梅田卓夫、清水良典、服部左右一編集『高校生のための批評入門』（筑摩書房、2012年） ※配本されていないテキストの入手については、『学習ガイド』を確認のうえ、「テキスト送付・購入申込書」で請求してください。
------	--

参考文献・URL	①梅田卓夫、清水良典、服部左右一編集『高校生のための小説案内』（筑摩書房、1988年） ②加藤典洋『言語表現法講義』（岩波書店、1996年） ③鶴見俊輔『文章心得帖』（ちくま学芸文庫、2013年）
----------	--

レポート課題

課題コード：11

初回提出物 (一括送付)	1. 添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2. レポート本文 手書きの場合：大学指定レポート冊子の原稿用紙面8～15枚程度・タテ書き、 手書き以外の場合：任意のA4用紙《1枚あたり40文字×30行》に 3,200～6,000文字程度・タテ書き ※『コースガイド』p.23の「体裁について」を必ず参照のこと。 3. 宛名表紙（レポート冊子綴込み、または『学習ガイド』巻末書式をコピーし、 返送先明記・切手不要） ※airUでの提出はできません。
再提出物 (一括送付)	1. 再提出用添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を 記入） 2. 再提出レポート本文 3. 前回提出（=D評価）のレポート（添削指導評価書（添削文含む）、レポート 本文、宛名表紙） ※airUでの提出はできません。

課題の内容

（1）テキスト『高校生のための批評入門』を精読したうえで、とくに印象に残る一篇をとりあげ、その印象の由来や根拠についてよく吟味し、かつ考察せよ。

（2）さらに、そこでの作業を踏まえながら、自分の印象に残る文芸作品一篇（テキストが特定可能であればジャンルの別は問わない。ただし『高校生のための批評入門』所収のものは除く）をとりあげ、その味わいや魅力について、自由に批評せよ。

字数はそれぞれ1,600字～3,000字程度とする。なお（1）（2）には内容上の関連を与えつつ、それぞれに簡潔なタイトルをつけること。所定の限られた字数の中で要点が表現できるよう、工夫してみてください。また、課題の趣旨や注意点については、「科目概要と到達目標」「評価基準と成績評価方法」「学習のポイント」を熟読してください。

テキストに収録されている批評文は五十一篇。書き手の人選も、バルトーク、宮城まり子、岸恵子、花田清輝、森毅、安部公房、ソントグ、中上健次、水木しげる、山下洋輔、ジャコメッティ、澁澤龍彦、三木成夫、阿部謹也、アラン、カフカ、サン＝テグジュペリ、ベンヤミン、安岡章太郎など、狭義の文芸批評の枠にとらわれることなく、多岐にわたっています。この選定が行われたのは、1986年のことですが、現在との時間差もまた、思考にとっての一つの面白い刺激として、受けとめることができるでしょう。

参考文献①は、このテキストの姉妹編で、海外および日本の小説四十篇を、抄録もしくは全文収録しています。

また②、③は、私たちにとって何かを書くということが、どれほどの広さと深さをもつ経験であるかということ、懇切丁寧に示してくれています。

TR	文芸論II-4 ノンフィクション	科目コード： 53637
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題提出形態	郵送・窓口・airU ※再提出の場合の提出方法は、初回提出方法に準ずる。	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 郵送・窓口での提出は締切日必着。airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。	
単位修得試験	有	
担当者	伊藤譲治	

科目概要と到達目標

これまで国内外で数多くのノンフィクション作品が書かれてきました。スポーツ、事件、評伝、科学、環境問題、紀行など、ジャンルも実にさまざまです。では、優れたノンフィクション、感銘を与えるノンフィクションとはどのような要件を備えているのでしょうか。この要件を考察し、理解を深めることを学習の到達目標とします。

評価基準と成績評価方法

1. 課題の把握
2. 表現力
3. 表現・表記の正確さ
4. 構想力・構成力

以上の評価観点を全体として満たしていることが合格の基準であり、課題（50％）と単位修得試験（50％）により評価します。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	山際淳司『スローカーブを、もう一球』（角川文庫、1985年） 本田靖春『誘拐』（ちくま文庫、2005年） 佐野真一『旅する巨人』（文春文庫、2009年） 立花隆『宇宙からの帰還』（中公文庫、1985年） 石牟礼道子『新装版 苦海浄土』（講談社文庫、2004年） イザベラ・バード『日本奥地紀行』（高梨健吉訳）（平凡社ライブラリー、2000年）

初回提出物 (一括送付)	1. 添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2. レポート本文 レポートを二つに分け（①と②の間で改ページをし）、一緒に提出してください（課題は二つで3,200字程度）。 ＜郵送・窓口提出の場合＞ 手書きの場合：大学指定レポート冊子の原稿用紙面8枚程度・タテ書き、 手書き以外の場合：任意のA4用紙《1枚あたり40文字×30行》に 3,200文字程度・タテ書き ＜airU提出の場合＞ 3,200文字程度・ヨコ書き ※『コースガイド』p.23の「体裁について」を必ず参照のこと。 3. 宛名表紙（レポート冊子綴込み、または『学習ガイド』巻末書式をコピーし、返送先明記・切手不要） ※airUマイページから提出する場合、上記の1. 添削指導評価書と3. 宛名表紙は不要です。
再提出物 (一括送付)	1. 再提出用添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2. 再提出レポート本文 3. 前回提出（=D評価）のレポート（添削指導評価書（添削文含む）、レポート本文、宛名表紙） ※airUマイページから提出する場合、上記の1. 再提出用添削指導評価書と3. 前回提出レポートは不要です。

課題の内容

課題は以下の①と②の二つです。

〔設問1〕

①参考文献にあげた6作品から一つを選び、その作品の中で最も印象に残ったところ、または最も感銘を受けたところを2,000字程度でまとめてください。その理由について必ず触れてください。

〔設問2〕

②自分がノンフィクションを書くとしたらどんな作品を書きたいか、テーマ・構想を1,200字程度でまとめてください。

①、②とも、結論を先に書いてください。文章を引用する場合には正確に引用し、引用した箇所のページを明記してください。

※airUで課題を提出される場合は、①と②の回答の間に行間をとり入力してください。

TR	文芸論II-5 論理的に考える・書く	科目コード： 53638
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし ※2014年度までに「創作演習10」（T4）単位修得済みの場合、履修は不可。	
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題提出形態	郵送・窓口・airU ※再提出の場合の提出方法は、初回提出方法に準ずる。	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 郵送・窓口での提出は締切日必着。airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。	
単位修得試験	有	
担当者	小柏裕俊*、河田学	

科目概要と到達目標

論理的に考え、それを文章にするためには、いくつかのコツがあります。自分の主張を持つだけでは不十分で、それを読み手に納得させるためには、方法や具体性を意識する必要があります。
本科目では、評論や論考を分析的に読んで理解し、それに対して自分なりの見解を述べることを通して、論理的に考え書くためのコツを学びます。論述レポートをどう書けばよいのか戸惑っている方をはじめ、「論文研究」や「卒業研究」で評論や論文を書く予定の方にも受講を推奨します。

評価基準と成績評価方法

1. 評論・論考を的確に分析しているか
2. 自分の見解を論理的に説明できているか
3. 明晰な文章で書かれているか

本科目の成績評価は課題と単位修得試験の総合評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『論文の読み方・書き方』本学テキスト ※配本されていないテキストの入手については、『学習ガイド』を確認のうえ、「テキスト送付・購入申込書」で請求してください。
参考文献・URL	鹿島茂『勝つための論文の書き方』（文春新書、2003年） 大辻都、篠原学『アートとしての論述入門』（藝術学舎、2017年） その他、課題中で参照・引用すべき文献は以下で指示する。

レポート課題

課題コード：11

初回提出物	1. 添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入）
-------	--------------------------------------

(一括送付)	2. レポート本文 <郵送・窓口提出の場合> 手書きの場合：大学指定レポート冊子の原稿用紙面8枚程度・タテ書き、 手書き以外の場合：任意のA4用紙《1枚あたり40文字×30行》に 3,200文字程度・タテ書き <airU提出の場合> 3,200文字程度・ヨコ書き ※『コースガイド』p.23の「体裁について」を必ず参照のこと。 3. 宛名表紙（レポート冊子綴込み、または『学習ガイド』巻末書式をコピーし、 返送先明記・切手不要） ※airUマイページから提出する場合、上記の1. 添削指導評価書と3. 宛名表紙は 不要です。
再提出物 (一括送付)	1. 再提出用添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を 記入） 2. 再提出レポート本文 3. 前回提出（=D評価）のレポート（添削指導評価書（添削文含む）、レポート 本文、宛名表紙） ※airUマイページから提出する場合、上記の1. 再提出用添削指導評価書と 3. 前回提出レポートは不要です。

課題の内容

レポートには以下の設問1と設問2の両方を含めること。

設問1

下に挙げる評論・論考A～Eから一つを選び、それを分析せよ（レポート1行目にA～Eのいずれかを記すこと）。その際、次の問いについて考察すること。①著者の主張は何であるか。②その主張を論証するためにどのような方法がとられているか。③その主張を論証するためにどのような具体例が挙げられているか。④具体例と主張を関係づけるために、具体例からどのような意味や意義を導き出しているか。（2,200字程度）

設問2

著者の考察に触発されて自分なりに考えたことを、具体例の一つ挙げて述べよ。その際、著者の主張と自分の主張のつながりを必ず示すこと。（1,000字程度）

＊課題に取り組む前に、「学習のポイント」をよく読んでください。

- A. 文学系：ピエール・バイヤール『読んでいない本について堂々と語る方法』（河出文庫、2016年）
- B. 哲学・思想系：石井洋二郎『フランス的思考』（中公新書、2010年）
- C. 文化論系：米澤泉『「女子」の誕生』（勁草書房、2014年）
- D. 社会論系：清岡智比古『エキゾチック・パリ案内』（平凡社新書、2012年）
- E. 歴史系：藤原辰史『トラクターの世界史』（中公新書、2017年）

※評論・論考A～Eについては、各自で購入または図書館で借りるなどして入手してください。

TR	文芸演習I-1 創作初歩	科目コード： 53639
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし ※2014年度までに「創作演習I」（T2）単位修得済みの場合、履修は不可。	
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題提出形態	郵送・窓口・airU ※再提出の場合の提出方法は、初回提出方法に準ずる。	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 郵送・窓口での提出は締切日必着。airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。	
単位修得試験	有	
担当者	小柏裕俊*、水野達朗、久留島元、齋藤希、吉田大輔 ほか	

科目概要と到達目標

小説や批評やエッセイや論文などといった、各ジャンルの文章を書く前の練習として、すべてに共通する「書き言葉」の基礎を意識し、実際に書いてみましょう。身近で具体的な題材を用い、字数を制限された文章を書くことによって、自分がこれまで書いてきた文章を見直し、人に読まれることを意識した文章へと転換をはかることが目的です。

原稿用紙に書く際のルールや表記法についての知識が不確かな場合は、（手許に残っているならば）中学、高校時代の「国語便覧」の類を確認しておいてください。また総合教育科目の「論述基礎」のテキスト『アートとしての論述入門』も参考になります。

評価基準と成績評価方法

1. 課題意図の理解
2. 表現・表記の正確さ
3. 発想力
4. 表現力・語彙力

本科目の成績評価は課題と単位修得試験の総合評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	辰濃和男『文章のみがき方』岩波新書（新赤版1095）、2007年 ※配本されていないテキストの入手については、『学習ガイド』を確認のうえ、「テキスト送付・購入申込書」で請求してください。
参考文献・URL	文章表現や日本語表現に関する書物は数多く市販されています。それぞれに特色があるので、目についたものはどんどん手にとってみるのがよいでしょう。

初回提出物 (一括送付)	1. 添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2. レポート本文 ＜郵送・窓口提出の場合＞ 手書きの場合：大学指定レポート冊子の原稿用紙面8枚程度・タテ書き、 手書き以外の場合：任意のA4用紙《1枚あたり40文字×30行》に 3,200文字程度・タテ書き ＜airU提出の場合＞ 3,200文字程度・ヨコ書き ※『コースガイド』p.23の「体裁について」を必ず参照のこと。 3. 宛名表紙（レポート冊子綴込み、または『学習ガイド』巻末書式をコピーし、 返送先明記・切手不要） ※airUマイページから提出する場合、上記の1. 添削指導評価書と3. 宛名表紙は 不要です。
再提出物 (一括送付)	1. 再提出用添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を 記入） 2. 再提出レポート本文 3. 前回提出（=D評価）のレポート（添削指導評価書（添削文含む）、レポート 本文、宛名表紙） ※airUマイページから提出する場合、上記の1. 再提出用添削指導評価書と 3. 前回提出レポートは不要です。

課題の内容

*レポートには以下の設問1、設問2、設問3のすべてを含めること。

設問1

テキスト『文章のみがき方』の「Ⅱ さあ、書こう」の「5 借り物でない言葉で書く」の章を読んだ上で、「身近な人」というテーマで文章を書いてください。文章のタイトルは「身近な人」とせず、あらためて各自が自分の文章にふさわしいタイトルをつけること。（1,100字程度）

設問2

テキスト『文章のみがき方』の「Ⅱ さあ、書こう」の「10 具体性を大切にして書く」の章を読んだ上で、「思い出に残る食事」を一つ取り上げて文章を書いてください。文章のタイトルは「思い出に残る食事」とはせず、各自が自分の文章にふさわしいタイトルをつけること。また、設問1とのシリーズ物ではありませんので、設問2のみを読んで十分に理解できる文章にしてください。（1,100字程度）

設問3

自分が設問1,2で書いた文章について、書き手としての自分の意図はどのくらい実現できたと思うか、書いてみてどんな発見があったか、どんな点を工夫したか、どんな点に苦心したかなど、振り返って感じたことや考えたことを書いてください。（1,000字程度）

TR	文芸演習I-2 短編小説を書く1	科目コード： 53640
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題提出形態	郵送・窓口 ※再提出の場合の提出方法は、初回提出方法に準ずる。	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 郵送・窓口での提出は締切日必着。	
単位修得試験	有	
担当者	門崎敬一*、水野達郎 ほか	

科目概要と到達目標

文芸創作の第一歩として、設定が指示されている短編小説を書いてみましょう。言ってみれば、“お題”が与えられた小咄です。空想でストーリーを創作することはもちろん大事ですが、そのことに縛られることなく、自らのとりとめのない思い出や経験、どこかで見かけた現実の光景や、人に聞いた話をもとにストーリーをふくらませて構いません。自由に想像の翼を広げて文章を書くことを楽しんでみましょう。その短編小説を読み終わったときに、読者がちょっとした驚きを感じたり、ほのぼのとした気分になったり、あるいはまた奇妙な気分浸ったりすることを執筆の到達目標とします。

この科目に履修の条件はありませんが、事前にスクーリング科目「文芸Ⅰ-4（小説の構造）」や同「文芸Ⅱ-4（小説の技法）」を履修することを推奨します。

評価基準と成績評価方法

1. 課題の内容を正しく把握・理解しているか。
2. 学習のポイントを踏まえて適切に課題に取り組んでいるか。
3. 発想に独創性があり、構成がしっかりしているか。
4. 日本語の表現・表記が適切であるか。

以上の評価観点を全体として満たしていることが合格の基準であり、課題（50%）と単位修得試験（50%）により評価します。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	川端康成『掌の小説』新潮文庫、1971年 トルーマン・カポーティ『夜の樹』新潮文庫、1994年 村上春樹『中国行きのスロウ・ボート』中公文庫、1997年 日本文藝家協会編『短篇ベストコレクション 現代の小説2018』徳間文庫、2018年

初回提出物 (一括送付)	1. 添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2. レポート本文 手書きの場合：大学指定レポート冊子の原稿用紙面8～15枚以内・タテ書き 手書き以外の場合：任意のA4用紙《1枚あたり40文字×30行》に 3200字から6000字以内・タテ書き ※『コースガイド』p.23の「体裁について」を必ず参照のこと。 3. 宛名表紙（レポート冊子綴込み、または『学習ガイド』巻末書式をコピーし、 返送先明記・切手不要） ※airUでの提出はできません。
再提出物 (一括送付)	1. 再提出用添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を 記入） 2. 再提出レポート本文 3. 前回提出（=D評価）のレポート（添削指導評価書（添削文含む）、レポート 本文、宛名表紙） ※airUでの提出はできません。

課題の内容

下記のA～Cの設定の中から1つを選び、3200字から6000字以内の短編小説を書きあげてください。
作品の冒頭に選択した設定A～Cを必ず記入し、さらに独自の作品タイトル（題）もつけること。

- A. 街で突然「ああ、久しぶり」と見覚えのない人に声をかけられて
- B. 駐車してあるクルマの後部座席に熊が座っているのを見つけて
- C. 父の通夜の席で

また、次の設定を行ってください。

- 1. 主人公の一人称とする。
- 2. 主要な登場人物は主人公を含め、2名または3名とする。
- 3. 場面（シーン）は1つから最大3つとする。

TR	文芸演習II-1 短編小説を書く2	科目コード： 53641
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし ※2014年度までに「創作演習2」（T4）単位修得済みの場合、履修は不可。	
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題提出形態	郵送・窓口 ※再提出の場合の提出方法は、初回提出方法に準ずる。	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 郵送・窓口での提出は締切日必着。	
単位修得試験	有	
担当者	麻宮ゆり子*、水野達朗、小柏裕俊 ほか	

科目概要と到達目標

第三者が読み、さまざまな意味で「おもしろい」と思える短編小説を書いてください。
 そのためには自分の書いたものを他人の作品であるかのように推敲し、正しい日本語を意識してこまめに辞書を引き、たくさん読書をすることは必須です。
 自分を主人公にして書く場合は、徹底的に自身を突き放して書くようにしてください。また想像力を駆使し、自分とは別の人格を創り動かすことも小説の醍醐味です。いずれにしても芝居っ気を忘れずに。見たり聞いたりしたことをそのまま書けば小説になるわけではありません。おもしろくなる工夫をあなたなりに凝らしてみてください。

評価基準と成績評価方法

1. 課題の把握
2. 独自の視点
3. 表現・表記の正確さ
4. 取材・観察
5. 総合

本科目の成績評価は課題と単位修得試験の総合評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	尾崎 翠『第七官界彷徨』（河出文庫、2009年） 唯川 恵『めまい』（集英社文庫、2002年） アグタ・クリストフ『悪童日記』（ハヤカワepi文庫、2001年） アンネ・フランク『アンネの日記』（文春文庫、2003年） ※関心のある小説本があればそれも参考にしてみてください。

初回提出物 (一括送付)	1. 添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2. レポート本文 手書きの場合：大学指定レポート冊子の原稿用紙面15～20枚程度・タテ書き、 手書き以外の場合：任意のA4用紙《1枚あたり40文字×30行》に 6,000～8,000文字程度・タテ書き ※『コースガイド』p.23の「体裁について」を必ず参照のこと。 3. 宛名表紙（レポート冊子綴込み、または『学習ガイド』巻末書式をコピーし、 返送先明記・切手不要） ※airUでの提出はできません。
再提出物 (一括送付)	1、再提出用添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2、再提出レポート本文 3、前回提出（=D評価）の添削指導評価書（添削文含む）、レポート本文、宛名表紙 ※airUでの提出はできません。

課題の内容

①一人称、②二人称、③三人称のいずれかひとつの人称を使い、原稿用紙15～20枚（6,000字～8,000字）の短編小説を書いてください。テーマやジャンルは自由ですが、自分の作品にはどの人称がぴたりとはまるのか考えてから取り組むようにしてください。題名をつけるのを忘れずに。そして作品の後に、創作の経緯や作品のねらいなどを200～400字の文章にまとめて加えてください(この文章と小説の本編をセットと見なし、あわせて上記の文字数になるようにしてください)。

※本文の1行目に選択した課題の番号(①～③)を明記してください。

TR	文芸演習II-2 インタビューして書く	科目コード： 53642
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし ※2014年度までに「創作演習3」（T4）単位修得済みの場合、履修は不可。	
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験	
課題提出形態	郵送・窓口 ※再提出の場合の提出方法は、初回提出方法に準ずる。	
課題数	1	
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 郵送・窓口での提出は締切日必着。	
単位修得試験	有	
担当者	門崎敬一 ほか	

科目概要と到達目標

人に会って、話を聞き、その内容を理解する。このシンプルな行為は社会活動の基本ですが、これに「聞き取ったことを、他者に伝えるカタチにする」を加えたものが、新聞・雑誌・テレビなどのインタビューです。

また、文芸作品のジャンルの一角にはノンフィクション文学、ルポルタージュ文学、人物評伝などがありますが、これらは一人、あるいは複数の人物から、人生で経験したことや遭遇した事件について詳しく話を聞き出し、それを文章に再構成したものです。文芸の源泉は、必ずしもフィクション（虚構）やイメージーション（想像）だけではありません。人間が経験したすべてが小説の題材となりうるのです。「私以外の、他の人の経験」という豊穡なビッグデータをインタビューで掘り起こすこともまた、文芸創作に結びつく行為なのです。

一定の段取りを踏んでインタビューを行い、その内容をいくつかのコツを理解した上で文章にまとめてみましょう。インタビューという実践を通して「その人」の新たな側面を発見する、そして、あなた自身の人間観が変わる、それもこの科目の到達目標です。

この科目に履修の前提条件はありませんが、スクーリング科目「インタビューと取材の方法論」を事前に履修しておくことを推奨します。

評価基準と成績評価方法

1. 課題の意図を正しく理解しているか。
2. 課題のテーマに沿った話題を聞き出しているか。
3. インタビュー原稿として適切に構成されているか。
4. 日本語表記として適切で、筋道の通った文章になっているか。

本科目の成績評価は課題と単位修得試験の総合評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	立花隆、東京大学立花隆ゼミ『二十歳の君へ——16のインタビューと立花隆の特

参考文献・URL	別講義』（文藝春秋、2011年） 木村俊介 『仕事の話——日本のスペシャリスト32人が語る「やり直し、繰り返し」』（文藝春秋、2011年） スヴェトラナ・アレクシエーヴィチ 『戦争は女の顔をしていない』（岩波現代文庫、2016年） 「朝日新聞」毎週土曜日の別刷「be」に掲載される人物インタビュー記事「フロントランナー」
----------	---

レポート課題

課題コード：11

初回提出物 (一括送付)	1. 添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2. レポート本文 手書きの場合：大学指定レポート冊子の原稿用紙面10～15枚程度・タテ書き、 手書き以外の場合：任意のA4用紙《1枚あたり40文字×30行》に 4,000～6,000文字程度・タテ印字 ※『コースガイド』p.23の「体裁について」を必ず参照のこと。 3. 宛名表紙（レポート冊子綴込み、または『学習ガイド』巻末書式をコピーし、 返送先明記・切手不要） ※airUマイページでの提出はできません。
再提出物 (一括送付)	1. 再提出用添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を 記入） 2. 再提出レポート本文 3. 前回提出（=D評価）のレポート（添削指導評価書（添削文含む）、レポート 本文、宛名表紙） ※airUマイページでの提出はできません。

課題の内容

下記A～Cのテーマから一つを選び、インタビューを行って一編のインタビュー原稿にまとめてください。原稿の冒頭に選択したテーマA～Cを必ず記入し、さらに独自のタイトル（題）もつけること。

A. 二十歳の頃

B. 仕事の話

C. 初恋

- 取材相手（話を聞く相手、インタビューー、Interviewee）は、取材者（あなた自身、インタビュアー、Interviewer）と血縁関係・婚姻関係のない人物（つまり、“赤の他人”）が最適ですが、探するのが難しい場合は三親等（曾祖父母、曾孫、伯叔父母、甥・姪）や知り合い（“親友”ではない）は認めます。
- 取材相手は、仮名にして任意の名前をつけてください。
- インタビュー原稿の形式は、〈一問一答型〉にしてください（下記の「学習のポイント」参照）。
- インタビュー原稿に加えて、取材相手のプロフィール（経歴）を200～400字にまとめたものをつけてください。人物名は仮名としますが、経歴は人物が特定できない程度には事実を書いてください。文庫本や書籍のカバー袖に書いてある作者経歴の書き方が参考になります。（このプロフィールとインタビュー原稿の本編をセットとみなし、あわせて上記の「レポート課題」の文字数になるようにしてください）

TR	文芸演習II-3 エッセイを書く 科目コード： 53643
配当年次	1年次～
単位数	2
履修の前提条件	なし ※2014年度までに「創作演習5」（T4）単位修得済みの場合、履修は不可。
履修方法	レポート課題（合格後）→単位修得試験
課題提出形態	郵送・窓口・airU ※再提出の場合の提出方法は、初回提出方法に準ずる。
課題数	1
課題提出期間	【4/30締切分】04/21～04/30、【7/30締切分】07/21～07/30、 【10/30締切分】10/21～10/30、【1/31締切分】01/21～01/31 郵送・窓口での提出は締切日必着。airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。
単位修得試験	有
担当者	寒竹泉美

科目概要と到達目標

エッセイは客観的な事実を積み上げて立証する論文とは違って、書き手の主観的な心の動きや個人的な感じ方を徹底して書くことで、物事の魅力を伝えることができる文章ジャンルです。この科目では、自分の体験や思いを、日記やただの記録の形ではなく、エッセイ作品として仕上げることを目指します。自分のことを知らない読者に想いが伝わる作品にするためには、①自らを客観視して自分が何者かを説明し、②出来事は必要なことだけを取捨選択してわかりやすい順番で説明し、③心の動きを中心に書いていくことがポイントになります。

評価基準と成績評価方法

<基本項目>

1. 文章の内容が課題に沿ったものであるか
2. 文章の基本表現が正確であるか

<付加項目>

1. 論理の確かさ
2. 展開の巧みさ
3. 発想の豊かさ
4. 語彙の豊富さ
5. 考察の深さ
6. 読者を引き付ける面白さ

本科目の成績評価は課題と単位修得試験の総合評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	なし

レポート課題

課題コード：11

初回提出物 (一括送付)	1. 添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2. レポート本文 ＜郵送・窓口提出の場合＞ 手書きの場合：大学指定レポート冊子の原稿用紙面8枚程度・タテ書き、 手書き以外の場合：任意のA4用紙《1枚あたり40文字×30行》に 3,200文字程度・タテ書き ＜airU提出の場合＞ 3,200文字程度・ヨコ書き ※『コースガイド』p.23の「体裁について」を必ず参照のこと。 3. 宛名表紙（レポート冊子綴込み、または『学習ガイド』巻末書式をコピーし、 返送先明記・切手不要） ※airUマイページから提出する場合、上記の1. 添削指導評価書と3. 宛名表紙は 不要です。
再提出物 (一括送付)	1. 再提出用添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を 記入） 2. 再提出レポート本文 3. 前回提出（=D評価）のレポート（添削指導評価書（添削文含む）、レポート 本文、宛名表紙） ※airUマイページから提出する場合、上記の1. 再提出用添削指導評価書と 3. 前回提出レポートは不要です。

課題の内容

下記のテーマからひとつ選び、2,800字～3,200字のエッセイを書きなさい（オリジナルのタイトルをつけること）。

- 1) 自分が変わるきっかけになった出来事
- 2) わたしの好きな場所